

問題提起

コーディネータ
早稲田大学 商学学術院准教授

中出 哲



本日は、大変お忙しい中、フォーラムにご参加いただきまして、まことにありがとうございます。最初に、私から問題提起という形で概括的なことを少しお話しして、その上で、3人の先生方からそれぞれの国についての詳しい説明をしていただくという形で進めていきたいと思っています。

今日のテーマは「生命保険市場としてのアジア」ですが、非常に大きなテーマになっています。アジアは、世界経済の推進役としてますます重要になっているわけですが、保険の分野でも大きく成長して、重要な地域になっているということがいえます。日本国内の生命保険市場については少し厳しい状況がございますが、アジア全体として見ると非常に成長しているセクターであるということがいえるかと思います。

ただ、アジアといいましても、非常に多くの国があつて、その社会経済、あるいは文化はそれぞれの国で相当な違いがあります。そういった多様なアジアを「アジア」として1つで見えていかどうかということもいろいろ議論があるかもしれませんが、やはりアジアとしての共通点なり特徴があるのではないかと感じています。

非常に個人的な経験をお話しして申しわけないと思いますが、私もこれまでいろいろアジアの国に出張したりとか、国際会議に出たりとかしておりましたが、そのときにいつも感じるがあります。その1つは、非常に親しみを感じるということがございます。もう1つは非常に力強いエネルギーというのでしょうか、成長に向けたパワーを肌でひしひしと感じます。これは仕事においていろいろな国の方とお話ししていてもそうですし、街を歩いていても、お店で買物をしてもそうですし、町全体、都市全体から、大きな力、エネルギー、活力、こういったものが伝わってくるように思います。

アジアの成長性というのはいろいろな統計指標などにも示されていて、躍進するアジアがわかりますが、実際にアジアに出張して、そこでいろいろなことに出会い、また発見する中で、アジアのもつすばらしい力を自分の体で感じてきたという部分がございます。皆様はいかがでしょう。

本日はアジアということで、非常に大きなテーマを掲げておりますが、生命保険市場でみますと、日本、それから中国、韓国が3つの大きな生命保険市場になっておりまして、この3つの国についてそれぞれのレポーターからお話をいただくということを考えております。

さて、最初に、アジア全体の生命保険市場の規模を概観しておきたいと思いますが、これは

Swiss Re という世界的な再保険会社の統計指標をもとにしております。保険制度は国によって
も相当違いますので、国際比較は非常に難しい状況にございますが、ここの資料が最も信用があ
るものとして昔から使われているものになります。

最新のものと 2008 年度の生命保険料の正味元受保険料収入になりますけれども、アジア
は全体の約 3 割を占めています。(シート 5) これは、各国の通貨をドルに換算していますので、
為替レートによってまた感じが違ってくる部分もあるかもしれません。現時点を考えれば、アジ
アの役割はもっと大きくなっているのではないかと私は推定しております。

アジアにおける分布ですが、全体の約半分を日本が占めていまして、続いて中国が 14%、韓
国が 10%、台湾が 8%、インドが 7%と続いております。(シート 6)

今ご覧いただきましたが、日本、中国、韓国でアジア全体の生命保険料の大体 4 分の 3 を占め
ております。これらの国の保険市場はそれぞれどうなっているか、詳しくはこれからお話をいた
だきますが、この 5 年、10 年といった流れを見てみますと、大きく共通した点もあるのではな
いかと思います。その辺を少し問題意識としてお話しさせていただけたらありがたいと思います。

まず、市場の大きな構造とか枠組み全体における変化というのがありまして (シート 7)、こ
れは時期の違いは当然あるのですが、自由化、国際化といった流れ、規制緩和といった流れは 3
国ともに共通するかと思います。自由化、国際化の流れの中で保険事業者の数、あるいはその企
業形態、資本関係に構造的な変化が生じました。また、保険商品とか、それを販売するような保
険の販売チャネルも多様化してきたということが共通にいえるかと思います。

また、最近の重要な傾向としては、消費者保護の流れがあります。また、金融危機などを背景
にしまして、リスク管理もそれぞれの国において極めて重要な 이슈になってきているという
ことがいえるかと思います。

もう少し具体的にお話しする観点から、日本のことを少しお話ししておきたいと思います。詳
しくは江澤先生からお話があるわけですが、私から少しだけ話をしたいと思います。我が国の状
況でいいますと、90 年代の後半にスタートして、資料にはいくつか例を掲げてみましたが、
業法の全面改正を初めとして、保険分野、金融分野におけるいろいろな改革がなされてきて今日
に至っていて、極めて激動の時期にあるということがいえると思います。(シート 8)

その結果、保険市場におけるプレーヤーにも大きな変化が生じています。(シート 9) 従来か
らの生命保険会社に加えて、損害保険会社からの子会社進出、また外資系生保も随分増えました。
そのほか、共済や簡保といったように、生命保険の市場という中ではいろいろな会社が競争して
いる状況になっています。また、持ち株会社がつくられたり、相互会社から株式会社に転換する
会社も出てきましたし、市場の中のプレーヤーに劇的な変化が生じているといえます。今や生命
保険、損害保険として単純に二分化して議論しているだけでは難しい状況になってきているとい
えるかもしれません。

それから、商品面などを見てみますと、商品面での多様化も非常に進んでおります。(シート

10) 生命保険商品にはいろいろな種類があつて、保障性の高い商品、あるいは貯蓄性の高いもの、投資性の高いもの、いろいろあるわけですが、商品が非常に多様化しています。その中では、単に保険の中の競争だけではなくて、それ以外の金融分野の商品との競争も激化しているということがいえると思います。

また、募集チャネルにつきましては、伝統的な保険外務員による募集の他に、代理店とか、通信販売といった販売チャネルも多様化して伸びています。(シート 10) 特に、銀行窓販による生命保険の販売は大きく伸びているわけで、このような結果、生命保険市場では、いろいろなプレーヤーが出現して、いろいろな販売手法によって、ダイナミックな競争が激化している状況になっているわけです。

もう 1 つの大きな動きとしては、消費者保護があります。消費者利益の保護とか増進を図るために、消費者基本法や消費者契約法が制定されています。(シート 11) 保険の分野でも消費者の保護を踏まえた大きな改正がいろいろなされておりますが、今年の 4 月から施行された保険法も消費者の保護を色濃く反映したものになっていることは皆さんご承知のとおりであると思います。

消費者の保護は、こういった法律面だけではなくて金融庁の金融行政にも色濃くあらわれております。監督指針、あるいは検査マニュアルの中においても大きな柱になっています。

消費者保護は、保険の商品、販売チャネルはもちろんですが、保険会社のオペレーションのすべてに対して大きな影響を与えているといつていいと思います。特に日本では保険金等の不払い問題も発生して、各社では体制を見直してさまざまな面での取り組みを強化している状況にあると思います。

日本における 10 年ぐらいの動きを振り返ってみますと、自由化、国際化という形で、規制緩和によって事業の領域が広がり、自由度が増してきたわけですが、一方、消費者保護、あるいはコンプライアンス、こういった分野を考えてみますと、逆に規制は強化され、厳しくなっている面があると思います。(シート 12)

96 年の自由化以降を見てみますと、日本の生命保険業界はとても厳しい状況が続いて、破綻した会社もあるわけですが、その後の金融危機などの大きな影響もありまして、リスク管理が非常に重要になっています。リスク管理は、会社単体だけではなくてグループ全体としてもとても重要になっていると思います。

以上、簡単に日本の状況についてお話をしましたが、こういった状況は日本だけではなくて、ほかの国にも共通する部分があります。今日お話ししたいいくつかのキーワードは、中国や韓国においても同様に見られます。共通する大きなうねりとして、基盤にあるのではないかと考えます。しかしながら、それぞれの経済規模、国民の保険に対する理解、あるいは自由化のスタート時期の違いなどによって具体的な現象面ではいろいろな違いが生じているかと思っています。

生命保険市場はこのように非常に大きな変革の中にあるわけですが、今回は各国の状況につい

て、それぞれの国の市場の展望と課題をテーマとしてお話をいただいて、認識を深めていきたいと思っています。それぞれの国における現状はどうか、課題は何であるか、そして、その課題が生まれる背景や原因はどこにあるのか、そして、これから生命保険が発展していくためにどういう方向へ進んでいくのか、このようなことを問題意識としてもちながら、それぞれの先生からお話を伺いたいと考えております。(シート 13)

本日は、それぞれの国を代表する3人の先生方からお話をいただきます。国による制度や状況に違いがありますので、分析の切り口とか取り上げる具体的なポイントについては少し違いが出てくることもございますが、その点をご容赦いただきたくお願い申し上げます。

最初に、日本の状況について早稲田大学の江澤先生からお話をいただいて、次に、韓国の状況について成均館大学の鄭先生からお話をいただきます。鄭先生は日本と韓国の生命保険の比較研究をされておりますので、その研究成果もここでお話しいただけたらと思います。続きまして、北京工商大学の王先生から中国の状況についてお話をいただいて、その上で皆様方からの質問にお答えする流れを考えています。

第18回 産研アカデミック・フォーラム

生命保険市場としてのアジア

—今後の展望と課題—

日時：2010年6月15日(火)
13:00～17:30

会場：早稲田大学国際会議場
井深大記念ホール



主催 早稲田大学 産業経営研究所
協賛 AIGエジソン生命保険株式会社

シート1

● プログラム ●

挨拶
商学学院総合研究所 兼 産業経営研究所 所長
早稲田大学教授(商学学院) 辻山 栄子

問題提起 (13:10～13:20)
コーディネータ
早稲田大学准教授(商学学院) 中出 哲

I. 講演

1. 「日本の生命保険市場の展望と課題」(13:20～14:00)
早稲田大学教授(商学学院) 江澤 雅彦
2. 「韓国の生命保険市場の展望と課題」(14:00～15:00)
成均館大学校教授 鄭 洪周
3. 「中国の生命保険市場の展望と課題」(15:00～16:00)
北京工商大学教授 王 緒瑾
(2. 3. は通訳があります)
……………〈休憩15分〉……………

II. パネルディスカッション・質疑応答 (16:15～17:30)
モデレータ
早稲田大学准教授(商学学院) 中出 哲
パネリスト 各講演者
(進行によりスケジュールは若干ずれる場合がございます)

シート2

問題提起

早稲田大学准教授(商学学術院) 中出 哲

略 歴

1981年 一橋大学商学部卒業
1981年 東京海上火災保険株式会社入社
1992年～1993年 ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・
ポリティカル・サイエンス法学部大学院留学(法学修士)
1993年～1994年 ケンブリッジ大学法学部大学院留学(法律学研究ディプロマ)
1995年～1997年 九州大学経済学部客員助教授(東京海上より出向)
2009年 東京海上日動火災保険株式会社を退職
早稲田大学商学学術院准教授(現職)

シート 3

生命保険市場としてのアジア： 問題提起

1. はじめに

アジアにおける保険市場
ダイナミックな変化

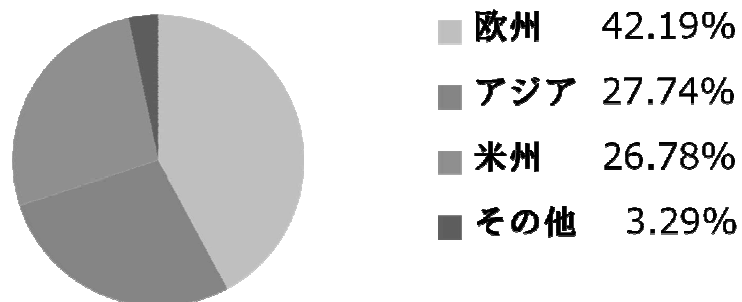
フォーラムのねらい
日本、韓国、中国 展望と課題

シート 4

世界におけるアジア生保市場の位置

2008年の世界の生命保険料収入 2兆4,900億ドル

生命保険料の世界市場シェア

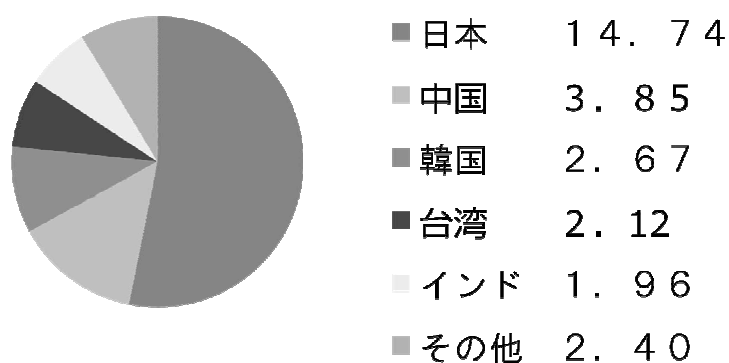


Swiss Re社発行 Sigma 2009年第3号をもとに筆者作成

シート 5

アジア生保市場における各国の位置

アジア 世界全体の 27.74%



Swiss Re社発行 Sigma 2009年第3号をもとに筆者作成

シート 6

生命保険市場としてのアジア：問題提起

枠組みの変化 市場の変化

自由化・国際化の流れと規制緩和
監督の在り方
企業形態、資本関係
保険商品
販売チャネル
消費者（利用者）保護
リスク管理

シート 7

わが国の状況

枠組みの変化 ➡ 市場の変化

保険業法の改正 1996年4月施行 （その後も改正）
 生保・損保相互乗り入れ、ブローカー制度、商品自由化 . . .
金融ビッグバン構想 1996年11月
金融システム改革法の成立 1998年6月
 業態間の相互参入、早期是正措置 . . .
銀行窓販の全面解禁 2007年12月～
消費者契約法 2001年4月施行
保険法 2010年4月施行

シート 8

わが国の状況

市場の変化

会社形態

M & A

子会社による生損保の相互参入

保険持株会社

相互会社から株式会社への転換

新規参入

破たん



プレイヤーの形態、資本、規模、数の変化

シート 9

わが国の状況

市場の変化

商品の変化

商品の多様化、金融商品との競合

募集チャネルの多様化

銀行窓口販売、代理店、ブローカー、通販



多様化、競争の激化

シート 10

わが国の状況

消費者（利用者）保護

行政による規制の強化

商品 わかりやすい商品、約款の平明化

販売 募集における説明責任の強化

コンプライアンスの強化

不払い問題に対する対応

シート 11

生命保険市場としてのアジア：問題提起

枠組みの変化 市場の変化

自由化・国際化の流れと規制緩和

行政の在り方

企業形態、資本関係

保険商品

販売チャネル

消費者（利用者）保護

リスク管理

大きな流れは
各国に共通？

シート 12

生命保険市場としてのアジア： 問題提起

日本、韓国、中国
それぞれの市場の展望と課題は？

- 現状はどうなっているか
- 課題は何か
- その背景や原因は何か
- 今後の方向

シート 13

日本の生命保険市場の展望と課題

早稲田大学教授(商学学術院) 江澤 雅彦

略 歴

1983年 早稲田大学商学部卒業
1986年 早稲田大学商学部助手
1991年 早稲田大学大学院商学研究科博士課程満期退学
1995年 八戸大学商学部助教授
1999年 早稲田大学商学部助教授
2001年 博士(商学)早稲田大学
2004年 早稲田大学商学学術院教授(現職)

シート 14

韓国の生命保険市場の展望と課題

成均館大学校教授 鄭 洪周

略 歴

1983年 ソウル大学校経済学科卒業
1990年 ペンシルベニア大学ウォートン・スクールにおいてPh.D.取得
1991年 成均館大学校助教授
1997年～1999年 ケルン大学客員研究員
2005年～2006年 早稲田大学客員研究員
現在 成均館大学校教授(リスクマネジメント論、保険論担当)
同大・保険文化研究所所長 韓国・金融消費者学会会長

シート 15

中国の生命保険市場の展望と課題

北京工商大学教授 王 緒瑾

略 歴

1983年 安徽財經大学卒業
1983年 北京工商大学助手
1990年 北京工商大学常勤講師
1993年 北京工商大学副教授
1994年より 保険学部学部長
1999年 北京工商大学教授(現職)

シート 16